

林業関係者から学ぶ

私たちは、林業について学ぶため常室地区に行きました。

「TOKOMURO

「TOKOMURO Lab」は、廃校になった旧常室小学校で自分たちがつくりたい物や、やりたいことをみんなで力を合わせて形にし続ける、新しい複合施設です。

私たちはTOKOMURO Labの中にある、「うらほろパーク浦幌」でデジタル森林浴と、「しり、まなぶ部屋」で木工体験をしました。林業の話聞いて、分かったことは、大きく三つあります。

一つ目は、浦幌町は、民有林、町有林が多く、育つのがはやい針葉樹がたくさん育てられているということです。浦幌町では、木の加工と伐採



どちらも行っていて、木下林業さんと大きい木材を、株式会社エムケイさんで、小さい木材を加工しているそうです。

浦幌で多く育てられている針葉樹は、カラマツやトドマツなどがありません。柔らかく、ヤニ

がでたり、割れやすいという特徴があるので、家の中の建築材など目につかないところで、使用されています。また、広葉樹は固くささくれが少ないため、家具やタイルなどに使われているそうです。

二つ目は、浦幌と本州の山の違いです。本州の山はそびえたつような高い山が多く、業者さんでも入れないからあまり手入れがされてません。そのため、木が高くなる密度が上がってしまい、さらに



入りづらくなるそうです。浦幌の山は、木の密度が本州と

★ 地域

講話・体験から

比べてとても低いですが、それは、山をきちんと管理しているからだそうです。



浦幌町出身で浦幌町で働いている方と、浦幌町外から来た四名の方にそれぞれお話を聞きました。

浦幌町で働く「うらほろパーク」

町内出身者で、「レストランウラティエ」の佐藤毅さんは、浦幌町のために周りの若い人が動いているので、自分でも浦幌町でやりたいと思いレストランを開業したそうです。浦幌町の良さは、若い人が集まってきている、つながりをもたせてくれる



浦幌町出身で浦幌町で働いている方と、浦幌町外から来た四名の方にそれぞれお話を聞きました。

マン」の梶川菜々美さんは、高校生のとき進路に迷った際、浦幌町の岡田農場にファームステイをしたのがきっかけで、浦幌町に移住してきま

した。本間さんは、浦幌町の魅力として二つのことをお話しいただきました。

一つ目は、浦幌町産のものを使った高校生のお店が「みのり祭り」であり、若者のチャレ



また、室蘭出身で「うらほろスタイルサポート」の本間里奈さんは、もともと先生になりた

るという特徴があり、人が温かいともおっしゃっています。

最後に、農家である伊場ファームの伊場みちひろさんは、現在、白花生を育てています。その白花生は浦幌町と北見にしか栽培

培われておらず、全国二位の収穫量を誇っています。浦幌町では伊場さんだけが有機栽培を行っています。伊場さんがおっしゃっていた浦幌町の魅力は、子供と大人が近いこと、自然が豊か、人が温かいということ

まどめから今年度に向けて

今年度は「地域再発見」のテーマで調べ学習を進めていきました。今回の講話で、地域について詳しく知ろうと思いましたが、今回わかったことは、農業では、独特な輪作について、豆類の収穫内容について、林業では製材業のこと、木の種類によって使われている目的がちがうこと。

漁業では、本ししゃも



つながりを持ってることが良いこと。さらに「みのり祭り」で、浦幌町産のものを使った高校生の出店などもあり、チャレンジの場になっていること、そして、その活動が浦幌中学校の生徒にも広がってきている

うです。一年生では、質問の答えを予測してさらに質問を考えました。質問の仕方では、あいさつや、返事を意識したり、相づちを打って話を聞くことを大切にしました。



二年生では、十勝に視野を広げていきます。そして浦幌町と比べ、浦幌町の良いところや足りないところを考えていきたいと思います。(優凜)

浦幌町に魅力があまりないと思っていますが、講話を聞いて自分では気づかなかった魅力を知ることができました。それは、梶川さんのお話しにあった「良い意味で人がいない」ということです。浦幌町に人がいないことをマイナスにとらえていたのが梶川さんの話を聞いて考えが変わりました。(理央)

浦幌町に魅力があまりないと思っていますが、講話を聞いて自分では気づかなかった魅力を知ることができました。それは、梶川さんのお話しにあった「良い意味で人がいない」ということです。浦幌町に人がいないことをマイナスにとらえていたのが梶川さんの話を聞いて考えが変わりました。(理央)